

令和2年4月1日

令和2年度 学校経営計画

東京都立府中工業高等学校長
古川 直浩

教育目標

- 勤労と責任を重んじる心身ともに健康な人間を育成する。
- 互いの人格と個性を尊重する豊かな人間性と規範意識をもった人間を育成する。
- ものづくりをととして工業の技術・技能を身につけ、広く社会に貢献できる人間を育成する。

1 目指す学校像

社会に出て自信を持って活躍できる生徒を育成する学校を目指し、以下具体的な学校像を示す。

- (1) 個に応じた学習指導を行い、学力の向上を図り、生徒一人ひとりの進路希望を実現する学校
- (2) 基本的な生活習慣を育成すると共に、社会生活における基本的なルールやマナーを身につけさせ、自立心のある生徒を育てる学校
- (3) 生徒自ら自己の進路目標を掲げ、その実現を支援する学校
- (4) 部活動や資格取得、学校行事等をととして、自信と気力・体力・知力を増進しチャレンジ精神を育成する学校
- (5) 体罰やいじめなどの未然防止の徹底と特別支援教育の整備に取組み、保護者、地域社会から信頼され、中学生やその保護者から選択される学校

2 中期的目標と方策

- (1) 基礎学力を定着させる教育の推進
 - ・習熟度別授業や少人数授業を導入し、「考えさせる」授業を推進する。
 - ・授業内容の改善のため、指導の工夫や校内研修体制を確立する。
 - ・個に応じた指導を一層推進し学力向上、技術向上を進める。
- (2) 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進
 - ・ものづくり人材育成指定校として、機械加工技能士、電気工事士、情報処理活用能力検定などの資格を卒業までに各生徒が5つ以上取得できるよう、各科を中心に積極的に取組んでいく。
 - ・系統的な指導によるキャリア教育を図り、インターンシップ等就業体験を充実させる。
 - ・学校幹旋による希望進路実現100%を維持する。
 - ・教育課程の改善、授業評価のあり方、キャリア教育の推進を検討し中途退学者を減少させる。
- (3) 生活指導充実の継続
 - ・「形から入りて心に至る」の指導を継続し、社会に出る心構えとしての意識向上を図る。
 - ・基本的な生活習慣の育成を推進する。
 - ・部活動や学校行事を活性化させる。
 - ・いじめ防止等カウンセリング機能を充実させる。
 - ・防災教育や環境教育等を推進し、生徒の安全と健康に関する指導を徹底する。
- (4) 地域との連携を図る
 - ・企業及び企業団体と連携し社会体験等を推進する。
 - ・地域と連携し奉仕体験活動を推進する。
 - ・中学校訪問等を行い、工業技術教育に関心のある応募者を増加させる。
 - ・府中市との連携及び近隣小・中学校との連携を密にする。

(5) 健康づくりの推進

- ・健康で基礎体力のある生徒を育成する。
- ・薬物防止教室など関係機関と連携する。
- ・生徒の心身とも健康な意識を高める研修を実施する。

(6) 募集広報活動の推進

- ・ホームページの充実を図り、広く都民に本校の教育活動を発信していく。
- ・中学校訪問などの PR 活動をより組織的に展開する。
- ・学校説明会、学校見学会、授業公開、体験入部、体験入学を充実させる。
- ・公開講座や施設開放を推進する。
- ・高度な資格取得を推進し結果数値を公表するなど、特色ある教育活動の実績を発信する。

(7) 校内組織の構築

- ・学校運営を組織的に行うため、より一層の適正化を行う。
- ・校内コンピュータネットワークの構築を維持する。
- ・ICT 計画推進のため校内研修を推進する。
- ・授業力向上、学力向上のために各教科が中心となり組織的に対応する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導（自分で「考えさせる」授業の推進）
・工業高校の特色である実験・実習を重視し、体験的な学習から実践的な技術・技能に興味・関心を高めさせ、高度な資格取得に挑戦する意欲と能力の向上を図り、ものづくり人材育成教育を推進する。 ・アクティブ・ラーニング（AL）を実施して主体的に対話的な深い学びにつなげ、学力の定着を図る。 ・指導教諭の授業参観をはじめ、教科の枠を超えて相互授業見学を推進し、そこで得られた改善点を生徒に還元することで、教員相互の授業力の向上を図る。 ・生徒による授業評価アンケートを活用し授業内容や指導方法の改善を図り、学力スタンダード（基礎）に対応した年間授業計画を作成し、明確な目標に基づいた指導と評価を行う。 ・授業環境を整え、習熟度別・少人数授業・補習等を活用し、生徒一人ひとりに応じた指導を充実させる。
② 進路指導（希望進路の達成）
・望ましい勤労観や職業観を育成するために、3年間を見通した系統的な進路指導計画を作成・実施し、キャリア教育の充実を図る。また、三者面談の早期実施により保護者との連携を深め、進路相談を充実させる。 ・資格の取得を推進し、生徒の希望進路実現を図る。 ・就職指導や進学指導の一層の推進を図るために学年、学科、教科の連携を深め、職業適性検査・進路講話や先輩の話を聞く会等を実施し、進路決定に向けて多角的・具体的な意識付けを図る。 ・むさし府中商工会議所及びサポーター企業と連携し、その活用を図ることで、本校在籍生徒だけでなく卒業生に対しても広く就職相談やキャリア教育の推進を図る。 ・2学年全生徒によるインターンシップや各科による企業見学等を実施し、社会人意識の向上を図る。
③ 生活指導（規律ある学校生活の向上「形から入りて心に至る」）
・「時間を守る」「約束を守る」「挨拶をする」を意識させた指導を展開し、自立した社会人としての基本的な生活習慣の確立を図る。特に、遅刻指導の徹底を継続する。 ・TPOに応じた言動、服装・身だしなみ指導を図り、規律ある学校生活を徹底する。 ・美化・清掃活動を指導し、社会生活における基本的なルールやマナーを身につけさせる指導を強化する。 ・避難訓練や防災教育等を通して、生徒自らが自己の安全を確保できるよう指導するとともに、地域社会

の一員としての共助の心を育成する。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組むため、学校いじめ対策委員会を活用し、学校全体で情報共有を図るとともに「いじめを絶対に見逃さない、許さない」を徹底する。
④ 特別活動・部活動（部活動加入者の増加と体力向上） ・生活指導部、学年及び部活動顧問が連携して部活動加入を促進し、各部活動の活性化を図る。 ・部活動の方針等を保護者に説明し、暴力、体罰の撲滅を図る。 ・東京都オリンピック・パラリンピック教育の一環としてとして、茶道等の日本の伝統文化の理解教育を推進する。
⑤ 心身の健康づくり・相談体制（健康生活への意識の向上） ・生徒が自主的に健康に生活できる意識を育てるために、生活環境を整え食育の充実を図る。 ・スクールカウンセラーの積極的な活用を生徒・保護者に周知し、活用を図るとともに、特別支援教育や相談体制の充実を図り、生徒の安全で安心な学校生活を確保する。 ・組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の悩みに対応するとともにいじめ撲滅を図り、自他の生命の大切さを実感させる教育を推進することにより自殺の未然防止を図る。
⑥ 募集・広報活動の積極的な展開（HP 等学校情報発信の強化と地域連携） ・魅力あるホームページを作成し、府中工業高校の教育活動を発信する。 ・立て看板やグランドフェンス等を活用し地域に情報発信する。 ・ホームページの更新を随時行い、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やその保護者、地域の方々、関係企業に本校に対する興味・関心および理解と信頼を得る。 ・近隣中学校と連携を図り、中学校教員や中学生保護者に工業高校の理解推進を図る。
⑦ 学校経営について（連携と育成、体制の確立） ・OJT を活用して各職層の人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制を構築する。 ・東京オリンピック・パラリンピック大会を見据えた国際理解教育・国際交流事業を推進するとともに、開催後にも継続してこの取組を生かしていく。 ・生徒や保護者アンケートに基づいた「期待に応える学校経営」を浸透させていく。 ・キャリア教育を推進するため、むさし府中商工会議所との連携を図る。 ・管理職が率先してライフ・ワーク・バランスを示し、全教職員の働き方改革を推進する。
⑧ ものづくり人材育成（資格取得推進と向上） ・技能スタンダードを定着させ、ものづくり人材育成のための教育プログラムを推進する。 ・「卒業までに一人5つ以上の資格取得指導の取組み」を具体化させる。 ・資格取得推進のために授業展開を工夫し、放課後や長期休業中の補習・補講を充実させる。

(2) 平成31年度の数値目標と昨年度の実績

数値目標	平成31年度	令和2年度 目標	令和2年度 実績
① 就職内定率	100%	100%継続	
② サポーター企業の活用	79%	100%	
③ 資格取得者数 ア 基礎製図検定 イ 機械検査 ウ 第2種電気工事士 エ 第1種電気工事士 オ ITパスポート カ 工事担任者 (DD3種)	ア 12名 イ 6名 ウ 68名 エ 18名 オ 3名 カ 19名	すべてにおいて +1名以上	
④ 国家資格等 5つ以上 資格獲得者数 (卒業時)	58	80名	
⑤ 部活動加入率	78%	80%以上	
⑥ 遅刻者数	1142	昨年比10%減少	
⑦ 特別指導件数	8件	5件以下	
⑧ ホームページ更新	293回	週3回	
⑨ 図書館貸出冊数	1764冊	昨年比10%増	
⑩ 学校説明会参加人数 (中学生・保護者合計)	449	600名以上	
⑪ 入学者選抜応募倍率 ア 推薦入学 イ 学力検査	ア 1.51倍 イ 1.16倍	ア 昨年以上 イ 昨年以上	
⑫ 退学者の減少 (対全生徒比)	0.4%	同水準継続	
⑬ 学校満足度 (肯定的回答) ア 生徒 イ 保護者	ア 72.4% イ 93.6%	ア 85% イ 95%	
⑭ 服務事故・いじめゼロ	0	0	
⑮ 月残業60時間超	11名	5名以下	